日ロ交流

発行: 特定非営利活動法人日ロ交流協会
E-mail:nichiro@nichiro.org
Home Page: http://www.nichiro.org
〒106-0041東京都港区麻布台3-4-14
麻布台マンシヨン401号
Tel：03 (5563) 0626　Fax: 03 (5563) 0752

〈投稿〉 2019年ワールドカップ日本大会 ロシア－サモア戦について

寺島 栄一

2019年9月24日（火）に熊谷ラグビー場で、ラグビーワールドカップ大会予選が開催され、ロシア選手団を見る機会があったのでレポートする。試合は夜間に開催されたが印象的だったのは熊谷市民の熱烈な歓迎ぶりである。熊谷うちわ祭りの山車をはじめ、熊谷駅前は案内ボランティアが多くおり、商店街もその日ばかりは、夜遅くまで営業をしていた。会場である熊谷ラグビー場は駅から離れているので公共交通機関であるバスで行く他ないのでバス乗降場まで歩かねばならないが、けっこう駅から離れており15分程度かかった。大勢の人たちが歩いており、対日本戦でないのにもかかわらず、これだけの人々を集める集客力があるのは、ワールドカップならではと思った。印象的だったのは沿道でロシア人が応援用のロシア国旗を販売していたことである。ロシア人観客は、それほど多くはなかったが、ロシア国旗が振られていたのが目立った。バス乗り場の近くにはサテライト会場があり、そこでは軽食や小さなパビリオンが設置されラグビーに対する関心を高めてもらうための工夫があちこちに見られた。その会場でまず驚いたのは会場のスクリーン上でロシア国歌をみんなで覚えて歌いましょうという企画が行われていたことだ。それもロシア語で歌おうというものだ。女性アーティストだろうか、彼女を中心としてロシア国歌を熊谷で歌っている、このようなことを誰が予測できただろうか。

ラグビーにはスリーサイドの精神というものがある。これは、On Side=反則はしない、No side=戦い終わったら敵味方無し、For side=チームのためにというものだ

が「敵味方無し」という精神はラグビーの3Fの精神の一つであるFriendship「友情」を育むものでもある。そのためアウェーの地であっても対戦国の国歌を歌ったり他のスポーツとはひと味違った雰囲気を味わうことが出来るのが特徴だ。会場に入るとほぼ満席である。私は指定席の関係でサモア応援団の隣に座ることになったが、おかげでロシアに対する応援の様子を見ることが出来た。会場の一角は小中学生であろうか、熊谷市内の学校であると思われるが、千人ほど応援している。そこで「ロシア！、ロシア！」の大合唱が聞こえてきた。これほどロシアに対する応援が見られるのはラグビーの試合だからかも知れないが子どもたちがロシア選手を応援することは意義が大きい。またロシアという国を身近に感じてもらうためには絶好の機会だと思った。

試合は9対34でロシアが負けてしまったが試合が終わった後の選手団が会場を一周する場面では会場からロシア選手団に対する暖かい拍手と歓声があがり、とても感動的だった。私も手を振ったが反応を示してくれた選手もいたのでうれしかった。このような形でロシアとの相互理解が深まることを切望している。（会員）

お知らせ

●第69回マトリョーシカ絵付け教室

日時：2020年7月5日（日）13：30～16：00
場所：田町リーブラ2階、造形表現室
会費：3,000円（お好きな教材１セット含む）
講師：菅野エレーナ

●ロシア語クラス再開

いよいよ７月より事務所でのクラスが再開します。
事務所では少人数で消毒等の配慮はしておりますが、受講の皆様はご理解の上、マスク着用等ご協力お願いいたします。
オンラインクラスも実施しておりますので、受講希望者はご相談ください。

●テーマ別ロシア語　続「おもてなしロシア語」

日時：2020年7月12日、26日、8月2日（日）13：30～16：00
講師：オクサーナ・ピスクノーワ
授業料：会員7,000円　一般8,000円
＊「日ロ交流」紙は8月はお休みさせていただきます。

お願い

NPO日ロ交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシア関連の学習会、ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けています。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をお願い申し上げます。
一口千円からいくらでも結構です。
振込先:郵便口座00160-9-66486、加入者：日ロ交流協会
連絡先:日ロ交流協会事務局 E-Mail:nichiro@nichiro.org
Tel:03-5563-0626 Fax:03-5563-0752
＊関根徹様からご寄付をいただきました。ご協力ありがとうございます。

便利になるロシア：コロナ騒動下のモスクワ

西山 美久

ロシアで新型コロナウイルスの感染拡大が続いており、5月下旬には累計感染者数が30万人を突破し世界で2番目に多い国となった。首都モスクワの感染者は15万人と国内最多を記録しており、ソビャーニン市長は感染拡大防止のためにロックダウンを実施するともに、市民の外出を制限するに至った。外出の際には事前にQRコードの外出許可証を入手しなければならないが、この外出許可は通勤を除き週2回までとされている。その影響で、食品や日用品の調達先として頻繁に利用している大型スーパーに行けなくなってしまった。そうした中、ロシアで急速に発展するフードデリバリーサービスは、自宅「軟禁」を強いられているモスクワ在住者の強い味方となっている。

一昔前までロシアと言えば、不便で住みにくい国というイメージがあったかもしれない。しかし、インターネットの普及によって様々なサービスが生まれており、思いのほか便利になっている。ロシア政府が石油や天然ガス等の資源に大きく依存する経済構造からの脱却を掲げ、「経済のデジタル化」を進めていることとも関係しているだろう。

例えば、ロシア大手の検索サイトを運営するヤンデックスは、2018年にフードデリバリーに進出し「ヤンデックス・エダ」を立ち上げた。若者を中心に利用者は年々増えている。注文はいたって簡単で、ホームページやスマートフォンのアプリで好きな料理を選び、自宅住所を入力して注文を確定させるだけである。料理は思いのほか多く、ハンバーガー、ピザ、スシロール、グルジア料理など様々なものがある。注文確定後は自宅までの配達時間や配達員がどこにいるのかを通知してくれるので、非常に便利なサービスである。

支払いは現金、カードのいずれでも構わない。もっとも、ロシアではキャッシュレス化が進んでおり、各種カードやアップル・ペイで決済できるため、注文時の支払いが主流のようである。筆者もこのサービスを利用する際はカードで支払いを済ませている。コロナ騒動の影響で不自由な生活を強いられているが、スマートフォン1台で注文・支払いが簡単にできるデリバリーサービスの利便性を実感している。

さて、3月下旬に始まった自宅「軟禁」生活は既に2ヶ月になるが、「ヤンデックス・エダ」のようなサービスをうまく活用することで何とか乗り切れるのではと期待している。駐在員からロシアでの苦労話を聞くたびに「その通りだ」と思うこともあるが、それでも便利になっている点もたくさんあり、変化し続けるロシアから今後も目が離せない。

（北海道大学）

「尼港事件」第一報を日本に伝えた親日ロシア人A.マケーエフ

倉田 有佳

アムール川下流域のニコラエフスク（尼港）で赤系のパルチザンによる虐殺事件（「尼港事件」）が起こったのは、ちょうど100年前の春である。日本人の犠牲者だけでも700名余りに及んだ。冬期間陸の孤島状態にあったニコラエフスクで起こっていることを最初に日本に伝えたのは、アルカージ・マケーエフ（Ｍａｋｅｅｂ.日本の記録には「マキエフ」）というロシア人だった。

マケーエフのサハリン来島時期は明らかでないが、1909年3月にウラジオストクで行われた（おそらくはカムチャツカの）漁場入札に参加し、1912年以降は薩哈嗹西海岸ヌイスキー地区の漁場の租借者となったことはわかっている。

1919年12月末、オホーツクに毛皮を買い付けに行く日本人の通訳としてサハリンから対岸のニコラエフスクに渡ったマケーエフは、翌1920年3月、「尼港事件」に遭遇する。混乱の市中から抜け出せたマケーエフは、結氷した海峡を犬ぞりで横断し、日本領樺太の国境の町・安別から「日本駐屯軍は過激派の為に全滅しつつある」と打電した（当時『樺太日日新聞』記者で、『北海タイムス』の通信員を兼務していた高田安巳の談話（『樺太』1940年4月号））。発信人もない電報だったが、高田は、「たまたま、豊原郵便局の電信係からこの大事件について、北樺太で油田開発をやっていた北辰会、成富道正らが陸軍、海軍両省あてに打電した電報をキャッチした」。高田は北海タイムス本社に伝えるのだが、この大スクープはボツにされ、何とも悔しい思いをする。結局、尼港事件の第一信は、この十数日後、東京の『朝日新聞』が報じた（杉本健『樺太―還らざる島』215頁）。

1920年4月27日付の『朝日新聞』他は、陸軍省発表として、「3月31日に尼港を出発し、4月8日亜港に来」た「米人マキエフ」の語る尼港の惨状を報じている。マケーエフが「アメリカ人」とされている点にも着目したい。

続いて5月末、現地に向かう救援隊・多門支隊の道先案内役を自ら買って出た。そして日本軍が北樺太を保障占領すると、軍政部に月給90円という高給で亜港（アレクサンドロフスク）の慈恵院（写真）に雇われた。先述の高田は、従軍記者として同地を訪れた際、「ウオッカを呑んで偉く威張っておった」マケーエフを目にしている。しかし、安楽な老後生活も日本軍の北樺太撤兵により終止符が打たれる。

1925年4月12日、マケーエフは軍政部に雇われていた他のロシア人たちと共に亜港を去った。下船地函館に留まるが病を患い、1926年頃横浜で亡くなったとされる。

なお、マケーエフの親日は、自身の所有する大きな漁場で「日本人の漁夫を使ったので、大の日本人贔屓になった」と証言する日本人がいたことを付け加えておきたい。

（ロシア極東連邦総合大学函館校教授）

亜港慈恵院（『北樺太軍政施設写真帖(1925年)』北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターHP内「極東ロシア・シベリア所蔵資料ギャラリー」より

バルト三国から見たロシア

畔上 明

古都タリンの石畳を踏締めながら親日家の現地ガイドが「エストニアと日本は隣国です」と語り、即座に「しかし、間にロシアが入り込んではいますが」と続けるのでした。国の東端、ロシアとの国境を接するナルヴァ川について話題が上がった時には「川を泳ぐ魚の半身はロシア、あとの半身はエストニアのもの」などと冗談を口にします。

フィンランド語同様フィン・ウゴル語派のエストニア語、ヨーロッパの言語の中で由緒あるバルト語族のラトヴィア語とリトアニア語と三ヶ国それぞれ独自の誇るべき言葉を持つ国々ではありますが、ソ連時代はロシア語が共通言語であり、三国を通しで案内する現地の人にとっては今もってロシア語が活用されています。しかしながら、ソ連邦からの独立後は、例えばリトアニアのガイドが国境を越えリガからタリンへ進む途上ロシア語で声を掛けた相手から唾を吐きかけられたなどという残念な逸話もあります。

1980年代後半ソ連邦ゴルバチョフ書記長がペレストロイカ、グラースノスチを謳い、自由の気風が生まれ民族自決の機運が高まり、600キロの長さをバルト三国の200万人が「人間の鎖」となって繋がり歌でソ連邦からの独立を勝取った歴史があります。1991年末にソ連邦が崩壊するとはソ連首脳部にとっては想定外であり、ましてその前段階でバルト諸国が独立のため立上がったことに対してゴルバチョフが武力を行使してしまったことで、それまでの鬱憤が爆発し独立後も根深い反感を生んでしまったのでした。

私にとっては、1976年旧ソ連邦及び社会主義国であった東欧諸国巡りを起点としてユーラシア大陸を放浪したときに、モスクワから北上したのが最初のバルト訪問でした。モスクワのルムンバ民族友好大学で学ぶという黒人の若者と道中知合った時に、妻がヴィリニュスに住んでいるので是非寄ってくれ、と誘われました。訪れた家がアンティックな内装でたいへん堂々とした風格を備えており、歓待してくれた

リトアニア夫人は品よく美しく、そしてその母親が昔貴族であったことを物語り気高くもあり奥床しくもあり、5-600年前はヨーロッパで最も広大な領土を誇ったリトアニアの歴史を伝えてくれ、夕食を振舞われ、挙句はリトアニアの名産品である琥珀のブローチをお土産に持たされたものでした。

1970年代から80年代はモスクワ訪問と共に同じソ連邦のビザで訪れることが出来たバルト諸国へと足を延ばしタリン、リガの古い街並みを歩き回った思い出、90年代以降のソ連邦崩壊後は、各国の新興旅行会社と契約を結びに回り、早稲田大学グリークラブの公演旅行を始めとしてバルト三国を周遊するツアーのアテンドを経験しました。そのような中で、リトアニアの若い女性から聞いた話が忘れられません。

「ロシアに反発を感じて外国語選択は英語、ドイツ語を学ぶ若者が増えていますが、私はロシア語を選びました。そのわけは先ず、ロシアのテレビ電波も届くのでチャンネルの幅が広がること、2つ目はロシア人の友達がいるのでそれを大事にしたい」そして3つ目の理由を聞いた時には思わず嬉しさがこみ上げてきたのですが「ロシア文学を原文で読むことが出来るから」というものでした。

（「プロコ・エアサービス」シニア・アドバイザー）

特定非営利活動法人日ロ交流協会 新役員一覧

会　長	有馬　朗人	常任理事	日向寺淳一	理事	大道寺 柳子
副 会 長	江守　元彦	常任理事	益田　元一	理事	土屋　正彦
副 会 長	朝妻　幸雄	常任理事	松本　泰男	理事	名島　薫
副 会 長	服部　文男	常任理事	水口　淳	理事	野口久美子
専務理事	内堀　學	常任理事	山岸ひさ子	理事	長谷川淑子
事務局長	千葉　麻里	常任理事	山田　雄康	理事	平野　元子
常任理事	岩本　智子	常任理事	横山　宣彦	理事	望月　繁
常任理事	江本　大輝	理事	岩橋　和治	理事	山口建二郎
常任理事	岡崎　好典	理事	大矢　温	理事	渡邉　絹江
常任理事	亀田慶一郎	理事	笠原以津子	監事	吉田　臣吾
常任理事	坂本　斐子	理事	重松　和重	名誉顧問	栗原　小巻
常任理事	滝波　秀子	理事	島山　堅蔵	顧問	野崎　守二
常任理事	中村　忠敬	理事	須田　毅	顧問	関根　徹
常任理事	中村　泰弘	理事	ﾃﾞｨﾁｬﾁｪｳﾞｧ・ﾕﾘｱ		（以上　計41名）

● 広報部宛、ご投稿、ご意見をお待ちしております

～イルクーツク便り(7)～

留学生活7年を迎えて・3

阿部 耕大

皆さんお久しぶりです。イルクーツク国立大学修士課程1年の阿部耕大です。世界的なコロナウィルス感染拡大がロシアに本格到来したのは3月中旬頃。その1週間後には緊急の休暇が設けられ教育機関は全て一時休業。休暇明けからは手探りでのオンライン授業が始まりました。今回は自宅待機が続くイルクーツク州の様子について紹介したいと思います。

大学関係者も初めての経験なので仕方がないのですが、結局オンラインでの講義が行われたのは3科目中1科目のみ。他の課目は大学が管理するサイト上に各自指定された宿題を期日までに提出する形になりました。パソコン上での講義は特に障害もなく進行していきました。ただ講義の内容が抽象的過ぎて（単語の意味としては辞書に掲載されていないものの、ロシアの文化背景と対応語句を基に照らし合わせた新たな意味の抽出)、外国人の自分には容易に理解できません。言語で構成されている世界観が違うから、非ロシア語母語者が理解するのは無理なの～と教授がさらっと言ってましたが、あなたの授業に外国人がいることご存じですよね？私あなたの科目の試験合格しないと除籍なんですけど？って言葉が喉元まで出かかりました(笑)前回の記事で授業は想像より難しくなかったとかほざいてた自分を殴りたいくらい(笑)ちなみに7月に行われる学期末試験もオンラインだそうです。

宿題やら復習やらでそこまで時間に余裕はありませんでしたが、一日中家にいるのはやはり耐え難く何度か外出しました。しかし開いているのは基本的にスーパーのみで、5月に入ってようやく美容室や電気屋、中で食事はできませんが多くのカフェで持ち帰りや宅配の受付が可能になりました。今まで語学学校とかでアルバイトをしていた学生も仕事が無くなり、Яндекс Едаの黄色いリュック担いで宅配に勤しんでいる人が何人かいます。

イルクーツクに留学していた日本人学生は全員緊急帰国便に乗って3月末にロシアから去りました。そして他の外国人学生も多くが母国へ帰国。そのせいか寮に残っている人はロシア人含め本当に数える程。毎日騒がしかったのが嘘のように静かです。と言ってもイルクーツクでは多くの人が既に自宅待機に耐えられなくなったのかマスクも付けずに外出しており、外から大音量で音楽や人の喧騒が聞こえてきたりすることも…(笑)イルクーツク州でも感染者は1500人超えてますが大丈夫かなぁ…。

住民登録の無い海外在留日本人は緊急給付金10万円の対象外と知った時は今年一番ってくらい祖国を呪いましたが、ロシアの大学が帰国できなかった外国人学生に食料品を提供してくれました。ブルーベリーパイと冷凍ハンバーグ5個（選考基準不明…笑）でしたが心が温かくなりました。その後国費留学生には緊急で1万4000ルーブルの支給もあり、学生に対する援助は日本に比べると迅速だと思います。ロシアの困った時は助け合い精神が垣間見えた気がして嬉しかったです。

モスクワ「ムゼイ」巡り・その21

電話の歴史博物館
Музей истории телефона

大矢 温

「ヨーロッパ最大の電話博物館」。とはいえ、規模はそんなに大きくない。前回のプリャンニク博物館と同様、これも私設博物館。電話会社が「スポンサー」とのこと。2018年に現在の場所にオープンした。19世紀末から20世紀末に至る2000個以上の各種の電話が展示されている。ソ連製はもとより、革命前からの外国製の電話や電信機も豊富に展示されているので、ロシア・ソ連のみならずヨーロッパの電話の歴史を目の当たりにすることができる。中でもニコライ二世皇后が使用していたドイツ製の電話機は電話マニアならずとも一見の価値がある。ちなみに展示物の中には1980年製造の日本製の「携帯電話」もあった。覚えている方もいらっしゃるだろう、自動車のバッテリーのようなゴツイ無線機本体に受話器が付いた、ごく初期の「携帯」である。これもまた展示物のフィンランド製の現代の携帯電話と比べるまでもなく通信技術の進歩には感銘を受けることだろう。ソ連時代の卓上電話や公衆電話なども当時を懐かしく思い出させる。展示物のネームプレートに貼られたQRコードにスマホをかざせばその展示物の説明を6か国語（露英独仏西中）で聞くことができるのでロシア語が苦手でも大丈夫。

また、博物館の一角がカフェになっているので、都心を散歩したついでにこの博物館を訪れれば、ここで一休みすることもできる。アンチックな電話に囲まれて、きっとリッチな気分でコーヒーを楽しむことができるだろう。

マヤコフスキー広場にほど近いが、サドーヴォエ環状線に面した巨大な集合住宅の中庭にあるので、ちょっと見つけづらいかもしれない。赤い英国製の電話ボックスが目印だ。ちなみに博物館の中にもソ連時代の電話ボックスがあって、去年の秋に私がこの博物館を訪れた際には、この電話ボックスの中でチェブラーシカが見学者の来訪を待っていた。

（札幌大学地域協創学群教授）

入場料は大人200ルーブリ、火曜日は無料。月曜休館日
最寄駅は地下鉄マヤコフスカヤ
123001, г. Москва, Садовая-Кудринская улица, дом 19с2